



Eine -切り紙の展示台-

筑波大学 人間総合科学研究科
准教授 李 昇姫

研究背景

幼児は、はさみで紙を切って自由に形を作ることが大好きである。
しかし、現在の切り紙の様子を聞くと...

- 何が作品で何が切れ端なのか本人以外わからない
- 幼児が遊んだ紙は全て親が捨ててしまう

このような現状は、幼児の作品作りの意思を無視しているように感じた。



新技術の基となる研究成果・技術

2009年、筑波大学内で発表された卒業論文、
「お絵描きにおける幼児の集中状態の研究」
(著：田野愛理)において、**幼児は自分の意志で好きな画用紙を選んだときに、瞬発的に深い集中状態を長く維持することができる**ことがわかった。

自分で判断することは、その判断に責任を持つということである。こういった経験を幼児に積ませることは、非常に大切なことである。



想定される用途



- Eineの形を自由に変えることが出来るという特徴から、幼児はEineの形からインスピレーションを受けて切り紙を行うことが考えられる。
- 上記以外に、Eineを輪にして身につけることも期待される。

想定される業界



- ・利用者・対象

はさみが使えるようになった幼児（3歳くらい～）

知育玩具として、おもちゃメーカーから販売されることを想定する。

実用化に向けた課題



- ・ 現在、ほぼ実用化できる模型を開発済み。しかし、各パーツのジョイントの滑らかさ、強度に問題有り。
- ・ 現在、ASB樹脂を積層RPで成形しているが、更に素材と成形方法の検討が求められる。

企業への期待



- 未解決のジョイント部分の精度・強度については、より精密な積層RPの技術または積層以外の3Dプリント（積粉など）により克服できると考えている。
- 上記の技術を持つ、企業との共同研究を希望。

お問い合わせ先



筑波大学 人間総合科学研究科
准教授 李 昇姪

tel/fax 029-853-2700

e-mail lee@kansei.tsukuba.ac.jp